

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0197400013		
法人名	社会福祉法人幸鐘会		
事業所名	グループホームべにばら		
所在地	雨竜郡秩父別町1542番地33 (電話) 0164-33-2677		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年3月31日

## 【情報提供票より】(20年1月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)19年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	15人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	250 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

### (4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3	要介護2	6		
要介護3	4	要介護4	5		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人アンリー・デュナン会 深川第一病院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、平成19年4月に特定非営利活動法人から社会福祉法人へ移行された。秩父別町役場近くの閑静な住宅街に立地し、毎年夏には広い敷地内で「べにばら祭り」を開催し、近隣住民が多数参加するなど地域との交流を深めている。また、小学生を対象とした認知症サポーターの講座を開講したり、地域住民に認知症への理解を深めてもらうような取り組みを行うなど、地域との連携を図っている。職員は「尊厳のある暮らし」・「その人らしさ」を大切に、利用者本位となるよう日々のケアサービスを実践している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価における課題であった、居間に掲示している職員用の書類については、職員間で話し合い、別途に収納するなど、改善に取り組んでいる。また、町内会との連携については、職員会議で話し合い、地域と協働体制を築けるよう取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価・外部評価の意義や目的を認識し、日々のケアサービスを振り返りながら全員で自己評価に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>利用者家族・地域住民・民生委員・町役場職員等を構成員とし、2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。会議では事業所の運営状況・入居状況・外部評価結果等について報告し、活発な意見交換を行っている。また、そこで出た意見や要望を事業所の運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>月に1度、写真付きの便りを送付し、利用者の暮らしぶりや健康状態等について家族に報告するとともに、来訪時にも生活状況を伝えている。また、家族を対象とした郵送によるアンケートを実施し、家族が意見・要望・苦情等を伝えやすい工夫をしている。家族から意見等を受けた場合は、事業所の運営に反映させるとともに、更なる質の向上に繋がるよう取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内の行事に参加したり、毎年夏に開催している「べにばら祭り」に近隣住民も多数参加するなど、地域との交流を深めている。また、小学生を対象とした認知症サポーターの講座を開講したり、利用者が子供達に昔の遊びを教えるなど、地域との連携を図っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境」「その人らしさ」を盛り込んだ法人の理念に加え事業所独自の理念に基づき、日々のケアサービスを実践している。	○	地域において地域密着型サービスとしての役割を再考し、全職員で理念を検討することが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や研修会等において理念を確認し、その実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の行事に積極的に参加したり、毎年夏に開催している事業所の祭りに近隣住民も参加するなど、地域との交流を深めている。また、小学生を対象とした認知症サポーターの講座を開講したり、利用者が子供達に昔の遊びを教えるなど、地域との連携を図っている。	○	現在は町内会には未加入であるが、今後加入し、町内の一員として町内活動や回覧板の受け渡し等を行い、地域住民とより連携を密に図ることが期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、課題について職員会議で検討し、改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	利用者家族・地域住民・民生委員・役場職員等を構成員とし、2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。会議では、事業所の運営状況等について報告し、活発な意見交換を行っている。そこで出た意見・要望等を事業所の運営に反映させるとともに、更なるケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村担当者に、事業所の実情や取り組み状況等について報告し、協働しながらともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月に1度、家族に個別の便りを送付し、利用者の生活状況や健康状態等について報告している。また、緊急時には電話で家族に連絡し、連携を図っている。さらに、事業所便りにて行事や職員の異動等について報告するとともに、金銭管理に関しては、出納帳・領収書のコピーを毎月送付し、確認してもらっている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者家族を対象としたアンケートを送付し、意見・要望等を伝えやすい工夫をしている。また、家族の来訪時に職員は声かけをし、気軽に意見等を話せる雰囲気づくりに努めている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動・離職は最小限となるよう努めているが、異動等があった場合は、職員間の連携を強化し、利用者にはダメージを与えないよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じた外部研修に参加する機会を設けており、職員は受講している。また、2ヶ月に1度、外部から講師を招いての研修会を実施したり、勉強会を行うなど、職員の資質向上を図っていると同時に、研修受講後は報告会を開き、全職員が研修内容を共有できるよう工夫している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修に参加したり、当事業所主催の講習会に他の事業所も参加してもらうなど、同業者と交流を図りながら、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に利用者本人・家族に事業所を見学してもらったり、職員との面談により事業所の雰囲気馴染めるよう工夫している。また、宿泊体験も可能であり、利用者が納得してからの入居となるよう配慮している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者の出来ることを見極め、調理や包丁研ぎなどを教えてもらうとともに、賞賛や感謝の言葉がけを大切に、ともに過ごす中で支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を活用して本人・家族の意向を聞き、日々の関わり合いの中から一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また、困難な場合は表情・行動から思いを汲み取り、本人本位となるよう支援している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の思いや意見を採用し、申し送りや会議で全職員で話し合い、利用者主体の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行うとともに、利用者の状態変化に応じてそのつど見直しを行っている。また、事業所独自のケア記録の様式を作成し、日々の記録の中でモニタリングを行うなど、現状に即した介護計画となるよう支援している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院時の送迎や、買い物・理美容室への付き添いなど、利用者の希望に応じた支援を行っている。また、遠方から来訪した家族が、食事・宿泊ができるよう体制を整えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	利用者それぞれのかかりつけ医への受診支援を行っている。また、通院の際には職員が付き添い、受診結果を家族に伝えている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化・終末期の方針について明示しており、入居時に家族に説明し、同意を得ている。また、状況の変化に応じてそのつど本人・家族と話し合いを重ね、意向を尊重しながら対応している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	事業所の理念にも「尊厳のある生活」を掲げており、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのない対応を行っている。また、個人情報の取り扱いを定めており、家族に説明し同意を得ている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	利用者の生活リズム・生活習慣を大切に、一人ひとりの希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じ、食材の買出し・調理・後片付け等を職員と一緒にしている。また、栄養士が作成した献立をもとに、利用者の希望を取り入れ旬の食材を使用するなど、食事内容を工夫している。	○	今のところ職員は利用者と同じ食事を摂っていないため、今後は一緒に調理した食事を同じ食卓で摂り、より食事が楽しみなものになるよう取り組むことが期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や曜日は決まっているが、声かけ等を工夫し、利用者が寛いで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・熱帯魚の餌やり・小学生へ贈るための交通安全のお守り作りなど、利用者の力に応じた役割の支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や路面状況等を考慮し、散歩・買い物・外食などの外出支援を行っている。また、月に1度、日帰り温泉やドライブなどを楽しむ機会を設けており、日常的に外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の理由から施錠しているが、日中は、職員の見守りや声かけを工夫し、利用者の行動や様子を把握しながら鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施している。しかし、地域から協力が得られるような働きかけを行うまでには至っていない。また、全職員が救急救命講習を受講するまでには至っていない。	○	今後は、夜間も想定した避難訓練を実施するとともに、全職員が救急救命講習を受講し、また、緊急時に地域から協力が得られるよう働きかけることが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の生活習慣や嗜好を考慮して献立を作成し、定期的に栄養士から助言を受け、バランスに配慮した支援を行っている。また、一人ひとりの病歴や症状に合わせて医師に相談し、食事・水分摂取量を確認しながら支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には植物を置いたり、熱帯魚を飼うなど、家庭的な雰囲気有している。また、季節に応じた装飾品により、季節感や生活感を感じられるよう工夫している。さらに、廊下には椅子が設置され、利用者が一人でも寛げるような空間を確保している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具が持ち込まれ、写真や手作り作品が飾られており、本人が安心して過ごせるよう工夫している。また、室内の模様替えを楽しむ利用者もおり、本人が居心地良く過ごせる空間となっている。		

 は、重点項目。